



# 老年症候群 長寿で直面

脱水症状を起こして、今年初めに東京城東病院（東京都江東区）へ緊急入院した妻（93）は、水分や栄養分を補給する点滴を受け体力を取り戻すと、食べやすく調理した病院の食事を進んで食べるようになった。

家では枕元に置かれたパンを食べたり、水を飲んだりすることができず、夫（80）が救急車を呼ばなければ命の危険もあった。だが、入院後は回復が進み、昼間は車いすで過ごす時間が増えてきた。

がとれなかった妻は、さらに重度の認知症も合併していた。このように、全身の機能が低下した高齢者に起こる様々な症状は、老年症候群と呼ばれる。

かつて、がん、心臓病、脳卒中が日本の3大死因と言われた。それらを免れて長寿を保った80〜90歳代の高齢者が直面するのが、老年症候群だ。わずかに体調を崩しただけで命に関わる一方で、適切に対応すれば十分回復することもある。全身が衰弱しても、終末期とは言えないことも多い。

こ認者総き症循  
み、転倒、寝たきり、高年齢の悪  
飲倒、寝たきり、高年齢の悪  
症、排尿障害、高年齢の悪  
老年症候群、転倒、寝たきり、高年齢の悪  
み、排尿障害、高年齢の悪  
知症、排尿障害、高年齢の悪

認知症は代表的な老年症候群の一つで、厚生労働省

研究班の調査では、85歳以上の4割に上る。妻だけでなく夫の認知症も進行していた。にもかかわらず、2人は何の介護サービスも受けていなかった。地域包括支援センター相談員の築山佳代子さんが訪問すると、部屋には20袋分にもなるゴミが散乱。マンションの住民たちは、誰も2人の現実

いさんは「なぜ、認知症のご主人が迷わず来られるのか不思議です」と話す。

妻は回復しても足腰が弱って、介護できる家族もないため、通常なら施設への入所を考える状態だ。だが、林さんと築山さんは、妻を自宅に戻す方向で調整を始めた。2人を引き離すと、夫婦が生きる意欲を失うように思えたからだ。「家内が帰ってくるのが楽しみです」と夫は笑った。

3月中旬。妻は車いすに乗り、介護タクシーで病院を後にした。訪問看護や介護、配食サービスを利用して在宅療養を続けている。だが、築山さんはこの在宅生活は長くは続かないと感じている。いずれは施設に入る時が来る。その時は一緒に入れるようにしてあげたい、と思う。「行きつ戻りつしながら高齢者は衰えていく」と築山さん。

妻の入院翌日から夫は一人で病院に見舞いに来た。病院で入退院支援に当たる医療福祉相談係長、林やよ



2か月以上の入院後、介護タクシーで自宅に帰るため、運転手に車いすを押しってもらう妻